

— 目 次 —

- | | | | |
|-----------------|-----------------------------------|--------|------|
| 1. 第63回大会の開催ご挨拶 | 開催拠点 | 金沢大学 | 林紀代美 |
| 2. シンポジウム企画 | 研究企画委員長 | 長崎大学 | 亀田和彦 |
| 3. ミニシンポジウム企画 | 企画代表者 | 大東文化大学 | 山下東子 |
| 4. 大会スケジュール、申込等 | 事務局 | | |
| 5. 研究会のお知らせ | | | |
| | (1) 唐津Qサバ・地域ブランドの次なる戦略を考える研究会 (案) | | |
| | ～個人経営に拠る養殖と企業養殖～ | | |
| | (2) 第4回小規模漁業会議のアジア太平洋地域支部会の開催案内 | | |
| 6. 事務局からのお知らせ | | | |

1. 第63回大会の開催ご挨拶 開催拠点 金沢大学 林紀代美

9月に入り、日中の暑さはまだ続きますが、幾分涼やかな風を感じられるようになりました。会員各位におかれましては、お変わりなくご活躍、ご健勝のことと推察いたします。早くも第63回大会の開催に関するご案内をお届けする時期となりました。金沢では、底引網漁業が解禁し、いよいよ「旨い魚食いシーズン」に突入いたしました。

新型コロナウイルスの流行拡大により、昨年度の大会は初のオンライン開催となりました。その際、来年度は対面開催できることを祈念し…としていましたが、その後流行が落ち着くどころか深刻化して現在に至っております。このため今年度の大会も、オンライン開催となりました。事務局の運営・管理環境を考慮し、拠点を金沢大学(事務局長所在地)として実施いたします。開催に先立ち、皆様にご挨拶、ご案内を申し上げます。

昨年度の大会や、その後開催したオンライン研究会での経験を活かし、本年度の大会はZoomを用いて報告者だけでなく会員の皆様どなたもが視聴・参加できる形でミニシンポ・研究集会や一

般報告、総会を実施いたします。多くの会員の一般報告へのエントリーや視聴参加を期待し、歓迎いたします。

対面開催時のように会場の雰囲気を感じながらのテンポ良い質疑応答、井戸端会議での密でスムーズな交流の実現までには至れないと思われまます。素人の手弁当によるZoom学会開催のため、充実、快適の報告環境を提供することは難しいですし、当日何らかトラブルが起きるかもしれません。事務局一丸となってできるだけの準備を進め、有益な知見や最新情報を見聞きできる場を、昨年度の状況よりも通常開催時に近い環境で確保、提供できるよう試みます。

オンライン開催になることで不便な面も多々ありますが、移動を伴わない分、参加のしやすさは向上するかと思います。お時間の合うタイミングに出入りしていただき、有意義な情報収集や意見交換の機会としていただければ幸いです。大会開催の土日の金沢はちょうど、カニ解禁日にあたります。学会に参加してどうぞカニをお楽しみ頂き…とご案内できないことが残念ですが、いずれ

訪れるコロナ後の新生活での楽しみのひとつに金沢魚食い訪問も検討いただければと思います。

11月6・7日には、画面越しですが皆様とお会いできることを楽しみにしております。

2. シンポジウム企画 研究企画委員長 長崎大学 亀田和彦

今回のシンポジウム企画について、本稿では、その狙いについて報告する。

漁村活性化という用語が使われるようになってから、かなりの時間がたっている。漁業が地域を支える柱として存在している多くの自治体では、様々なアプローチで漁業地域の活性化を試みている。

ところで、漁業地域活性化（以下、いわゆる漁村を漁業地域と表現する）とは何であろうか。例えば、そのアプローチとは、漁業や水産加工業の振興という産業のあり方や経済活動に切り口を求めるものだけにとどまるものではないだろう。

「経済」の後押しをしさえすれば漁業地域の活性化が軌道に乗ると期待して良いのだろうか。むしろ、こうした経済活動と密接不可分である当該地域住民の生活空間までを視野に入れた活性化策の組み立ても、じゅうぶん、検討に値することであろう。

例えば、漁業地域に地域外からの観光客を誘引して域内消費を拡大しようとする活性化策は、漁業振興策の一部だと説明されることが多い。しかし、その実態を改めて考えると、当該地域に宿を取り地場産水産物を食べたいと来訪する観光客の誘致が成功するには、漁業・水産加工業・飲食業・宿泊業・物販業ほかによる産業間連携が受け皿として機能することが前提となっている。また、必ずしも食指向とは限らず漁業地域の景観や町並みを見たいと来訪する観光客にとっては、当該地域において見たり聞いたり感じたりふれあったりできる（多くの場合、当該地域独自の歴史や

伝統に育まれたものである）景観・町並み・有形無形の文化財・地域住民とのふれあいなどが、受け皿として機能することが前提となっている。この2パターンを活性化策として整理してみよう。前者は、複数産業分野の連携がベースとなるという「経済事象のありかた」が活性化の軸だということになるだろう。後者は、地域社会に根付いている伝統・文化・日常の暮らしといった「非経済事象のありかた」が活性化の軸だということになるだろう。ところが、漁業に関わる経済・非経済の2面というものが実は区別なく渾然一体とした空間を形成しているのが漁業地域である。だからこそ、漁業地域活性化を議論するには、この2面を同時に捉えて（もちろん優先順位論は否定しないし、施策として実施する自治体の所掌部署が分散せざるを得ない現実も承知している）整理することに触れておくべきだと考える。

今回は、おもに地理学分野を専門領域とする研究者の協力を得て上記仮題のシンポジウムの準備をすすめている。報告内容など、具体的なところは今後、当学会サイト上で順次、掲載して、会員各位のご意見をお待ちする。今回のシンポジウムでは、特定の漁業地域を事例地としてそこでの「活性化」を複数学問分野から評価しようとするものではない（「〇〇地域漁業活性化に関する総合的学術調査」というものではない、ということ）。むしろ、事例となる地域は複数、切り口も複数、しかし、ここで示した視点を共有しながら改めて漁業地域の活性化を考えたい、というものである。

3. ミニシンポジウム 水産物卸売市場の今後：法改正とコロナ禍の影響を考える 企画者 山下東子

1) 問題意識

2020年6月改正市場法が施行された。これに歩調を合わせて全国消費地の水産物卸売市場では市場ルールの再検討が行われ、大きく規制緩和した市場も従前の規定を踏襲した市場もある。改正市場法のもとでの市場状況を展望する間もなく、2020年初頭からのコロナ禍で卸売市場は少なからぬ影響を受けている。高級食材が伸び悩むなか、これまで直接接点のなかった消費者と交流したりネット販売に活路を見出そうとする事業者もいれば、値崩れを抑えるためコロナ後を待つ事業者もいる。

本ミニ・シンポジウムでは、この2年間の水産物卸売市場の法改正とコロナ禍の影響を多角的に掘り下げ、今後は展望する。これは単独の研究ではカバーしきれないこと、直接市場に赴いて調査することが困難なことから、この分野の専門家や事業者の方にも報告をいただき、広い視点から議論することとした。報告者の一部（藤島氏、網野氏、浅沼氏）は当学会会員でないため、ミニシンポとして実施する。時間枠

としては、一般報告4-5名分にあたる2時間を予定する。

2) 登壇者とタイトル

第1報告

ミニシンポの意図と解題

山下東子（大東文化大学、会員）

第2報告

データで見る市場法改正とコロナ禍の影響

藤島廣二（東京聖栄大学教授）

第3報告

全国の水産卸売事業者への影響

網野裕美

((一社) 全国水産卸協会会長)

第4報告

仲卸業者への影響と今後の課題

近藤信義 ((株) サンフード、会員)

コメンテーター

浅沼 進 (市場流通ジャーナリスト・元東京

海洋大学大学院教授)

キーワード：

改正市場法、消費地市場、仲卸

4. 大会スケジュール、申込等 事務局

以下のように予定しております。なお、オンライン開催とするため、理事会、総会資料、大会要旨集等は作成しだいHPに掲載いたします。

大会参加費は無料です（一般報告される方は1,000円必要です）。

11月6日(土)	11月7日(日)
9:00-11:30 理事会	9:00-10:00 一般報告
11:30-12:00 総会	10:00-12:00 ミニシンポジウム
13:00-16:00 シンポジウム	13:00-16:00 一般報告
16:00～ オンライン懇親会	

*一般報告の報告者が多い場合は複数会場で実施します。

**Zoom 参加用 URL、パスワードの配布は、11月2～3日頃を予定しています。当学会のメーリングリストでお送りしますので、未登録の方は学会HPお問合せフォームから申請してください。

【一般報告の申し込み】

エントリーの時期

開始 9/6 (月) 締め切り 10/1 (金)

一般報告参加費の振込

10/4 (月) までに一般報告参加費として 1,000 円を振り込んでください。

【振込先】

口座名：地域漁業学会

郵便振替：01750 0 83886

銀行振込：三菱 UFJ 銀行 新富町支店

普通 0146078

*会費を滞納している会員は個別報告にエントリーできません。事前に会費を納めていただきますようご協力をお願いいたします。

応募内容

報告者、連名報告者の氏名・所属

報告タイトル

要旨集原稿 (学会 HP 上の Word ファイルで作成)

応募先・お問い合わせ

事務局 林、山尾、天野

chiikioffice.chushikoku@gmail.com

(◎ を@に変換して下さい)

*メールの題目は「第 63 回大会一般報告エントリー (ご自身のお名前)」としてください。

*エントリーにはメーリングリストで配信する申し込みフォームをご利用いただくと便利です。

要旨集の HP 掲載

10 月 31 日ごろを予定

5. 研究会のお知らせ

(1) 唐津Qサバ・地域ブランドの次なる戦略を考える研究会 (案)

～個人経営に拠る養殖と企業養殖～

過日、メール、HP 等でご案内しております、地域漁業学会と九州大学農学研究院附属アクアバイオリソース創出センターとの共催の研究会です。

完全養殖の唐津Qサバをテーマに現地視察を兼ねた研究会を唐津において開催いたします。ついては、産学連携と地域ブランド、養殖マサバ、差別化戦略、ゲノム編集と育種、個人経営と企業経営をキーワードに検討を行い、今後の

地域ブランド養殖魚の方向性について、一定の示唆を得ることを目的に開催いたします。

現地視察が入りましたので、研究会の時間が15時からとなりました。視察の様子は後日写真、または動画でお知らせする予定です。

研究会の詳細は地域漁業学会のHPでご確認ください。<http://jrfs.org/saba.pdf>

開催日：2021 年 9 月 25 日 (土) 15:00～

オンライン参加ご希望の方は、下記までお知らせください。

jrfskenkyukai © kyouritsu-online.co.jp

(◎を@に変換して下さい。)

(2) 第4回小規模漁業会議のアジア太平洋地域支部会の開催案内

2022年5月に静岡で、第4回小規模漁業会議の支部会をTBTI Japanのホストで開催いたします。参加(発表)を希望する場合は今年10月15日がエントリーの締切となっております。

詳細は、<https://www.4wsfcongress.com/>をご覧ください。

TBTI Japan コーディネーター
李 銀姫 (東海大学海洋学部 准教授)

6. 事務局からのお知らせ

(1) 会員情報更新、メール登録について
メール登録をしていただくようお願いいたします。(メールの配信数は多くはありません。)
メールアドレスの変更、住所変更は、以下のURLでできます。

<http://jrfs.org/nyukai.html>

不明な点がございましたら、ホームページ上の問い合わせメールでお願いします。事務的なことについては、共立のご担当者がおこたえいたします。

(2) 会費納入のお願い

第63期会費納入、過年度分についても納入をお願いいたします。

地域漁業学会 <http://jrfs.org/>

本部事務局 株式会社共立内

〒104-0033 東京都中央区新川2-22-4 新共立ビル (株)共立内

(担当: 地域漁業学会) TEL: 03-3551-9896 FAX: 03-3553-2047

郵便振替: 01750-0-83886

銀行振込: 三菱UFJ銀行 新富町支店 普通 0146078